

珠（供出玉として粗悪珠を市場流通させないため、全体の10%くらいは核に戻す）に分ける。

キ 珠磨き（珠洗い）作業

精品・2級品は珠磨き機を使って、まず真水で10分洗い、その後中性洗剤で10分洗う。その後、真珠に残っている泡と水分を遠心機で完全に切って乾かす。

⑦選別

真珠の選別は、サイズ（6～10ミリなど）ごとに精品と2級品に分けて入札会へ出品するために行う。まず篩（ふるい）を使ってサイズ（6～8ミリが中心になる）を揃える。次に、この珠を精品と2級品に分けるため一個ずつ選別する。さらに2級品はランク別に7～8種類に分ける。この選別の良し悪しが入札価格に大きく影響する。



篩の中は10ミリ、上段6、7ミリ、下段8、9ミリ

⑧入札会

12月～2月の間に2回、1週間くらい開催される。また、三重県、長崎県等でも実施される。

2008年は例年なら12月に行っている越し物の入札会を年明けにしたにもかかわらず、業者の購買意欲が低く、価格も安値で当然に売り上げも落ち込んだ上、無札（売れ残り）も多く出た。無札のものは入札会とは別に後日行われる示談会で販売するが価格は当然安くなる。そのため生産額は過去最低となった。

また、真珠の浜揚げの時期は、どの県も12月から3月ごろに集中することと、日程により入札価格に有利・不利があるため、他所より早くしたいと考える。

真珠は、基本的にサイズ（中心は6～9ミリ）が大きいものが高いが、最近では以前ほど各サイズの価格に差がなくなった。特に9ミリ以上の大きいサイズはインドネシア、フィリピン、グアム、オーストラリア等で黒蝶貝・白蝶貝からも生産されるため、以前と比べ価格が下がっている。

⑨その他

ア 真珠の主なものは次のとおりである

○アコヤ真珠（和珠）

日本の真珠養殖は、ほとんどアコヤ貝を使っている。

○白蝶真珠（南洋真珠）

白蝶貝を使い、オセアニア・東南アジア方面の比較的水温の高いところで養殖している。

○黒蝶真珠

黒蝶貝から採れた真珠で、ほとんどはタヒチの島々で採れる。黒真珠はブラックカラーの真珠の総称で、アコヤ真珠や淡水真珠を黒く染めたものも黒真珠に含まれる。

○淡水真珠（湖水真珠）

中国の湖・川などの淡水で、イケチョウ貝から採れる。

○マベ真珠（半形真珠）

奄美大島以南の熱帯・亜熱帯の海域で育つマベ貝から採れる。

イ 核の価格

真珠核のほとんどは、米国のミシシッピ河流域に生息する二枚貝（ドブ貝）を輸入して、兵庫県淡路島、大阪府松原、奈良県橿原などの核メーカーで丸く加工している。

真珠の核の値段は、サイズによって一貫（3.75kg）の値段（時々相場変動する）が6～25万円くらいで大きく違うが、基本はサイズが大きいものほど高い。核は購入後10～20年経っても使えるが、長年保管していると乾燥や劣化によって使うときにロス（核入れに使えない核）が出る。

ウ 貝殻の活用

真珠の貝殻については、一部は螺鈿細工やボタンにす